

JWSF

Japan Wheelchair
Seating Foundation

日本車椅子シーティング財団 財団通信 2025年 秋号

2025年11月12日 No.20

一般財団法人日本車椅子シーティング財団 〒103-0012 中央区日本橋堀留町1-10-1 カクタビル2F
<http://www.wheelchair-seating.org/> e-mail: info@wheelchair-seating.org

Contents

1. 報告

2025年HCRグローバル
セミナー報告

2. 日本車椅子シー ティング財団の設 立からの歩みⅡ

3. お知らせ

第6回シーティン
グ連携マトリクス
研究会開催

2025年HCRグローバルセミナー報告

日本車椅子シーティング財団 副代表理事 加島守

去る2025年10月8日(水曜日)～10日(金曜日)まで東京ビッグサイトにて、H.C.R.2025 第52回国際福祉機器展&フォーラムが開催されました。今回は東ホールがリニューアルということで西館と南館で開催され、11か国1地域から414社・団体が出席し121,137名と昨年よりも多くの方が来場されました。

今年のグローバルセミナーではデンマークのリハビリテーションの修士号を持つ作業療法士で、デンマークケア協会の副会長、そしてMake Rehabの共同オーナーであるマレーネ・アレクサンドロウィッツさんが10月10日の13時～14時30分「高齢者の24時間のポジショニングとシーティングの重要性」について事例を交えてお話ししてくださいました。

講義の内容は、座位姿勢が高齢者の健康状態や生活の質に及ぼす影響、移動に支援を必要とする高齢者のニーズの理解、そして脳血管疾患の方と認知症の方の事例から個人のニーズや好みに焦点をあて、「**高齢者個人に合わせた介護を保証する。**」「自立を維持し、必要に応じて支援を受けながら日常生活が送れるよう促す。」「高齢者がすべての関わりの中で尊敬され、**尊厳が守られるよう保証する。**」「高齢者一人ひとりの健康や生活の具体的なニーズに合った介護プランを作成する。」という視点から嚥下障害や呼吸の問題を踏まえて、**ICFモデルを用いたデータ収集し、24時間体位管理の視点と活動を重視した分析をもとに、座位姿勢、体位変換、臥位姿勢の要件、車いすの要件**を講義してくださいました。また、認知症の方に対しては感覚プロファイルを用いての感覚統合を踏まえて取り組まれていました。

体位変換の方法に関しては実演を通し

てわかりやすく説明をしてくださったので、満席であった受講生の方は大変満足されていたと思います。事例の紹介ではマレーネさんが代表を務めているMake Rehabという会社の商品である「呼吸をすることでロッキングチェアの動きをする車椅子」を使用して呼吸機能や認知機能の改善がみられ、感覚プロファイルを用いての認知症高齢者の評価方法も今後普及されなければならないと思いました。

マレーネさんが共同代表しているメイクリハビリアカデミーのHPにHCR2025でのセミナーのことが書かれていますので、下記URLからご覧ください。

<https://makerehab.com/make-rehab-academy>

なお、H.C.R.2026は、2026年10月7日(水)～9日(金)、東京ビッグサイト東展示ホール1・2・3・7・8で開催されます。



日本車椅子シーティング財団の設立からの歩みⅡ

日本車椅子シーティング財団 代表理事 木之瀬 隆

2016年2月に財団が設立されてから2020年までの経緯は、前回夏号で紹介させて頂きました。

(ご覧になりたい方はHPでご覧になれます。)

2020年は世界的な新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、日本国内でも経済の停滞、亡くなった方も多くありました。財団活動も停滞を余儀なくされましたが、その10月には財団事務所の移転などを行い、次のミッションに向かい始めました。

その一つとして、2020年から厚生労働省の老人保健健康増進事業として、「車椅子における座位保持等と身体拘束との関係についての調査研究」が始まり、財団からは、高木憲司氏、川畑善智氏が「高齢者の適切なケアとシーティングに関わる検討委員会」の委員として参加しました。2021年3月にはその報告書が出されました(図1)。また、介護報酬改定のシーティングとして訪問リハなど

で介護報酬がとれるようになりました(図2)。これらは財団設立から活動の柱の一つであった、座位保持装置等に付属するベルトやテーブルの使用における解釈の成果の一つと言えます。

2022年はコロナ禍ではありましたが、介護保健にシーティングが入ったのを受けて、オンライン配信中心にセミナーを行いました。5月に「介護保険のシーティング」、11月には「介護保険領域の高齢者施設での取り組みと課題」についてセミナーを開催しました(図3)。セラピストとケア従事者がどのようにチームを作るとシーティングが進むかについて検討しました。その後、2025年10月には、長野県でシーティングに取り組んでいる社会福祉施設平成会さんが「ケア従事者のためのシーティングガイドブック」を作成されました(図4)。(https://seating.jp/)。

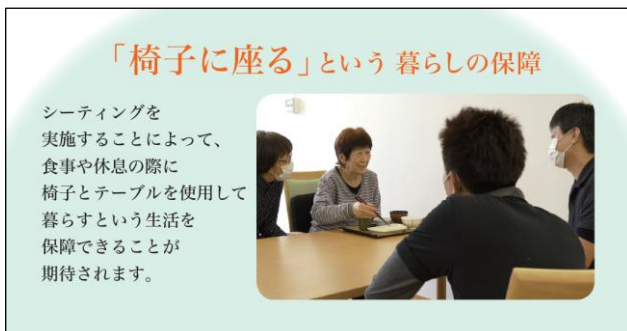


図1 適切なケアとシーティングから抜粋

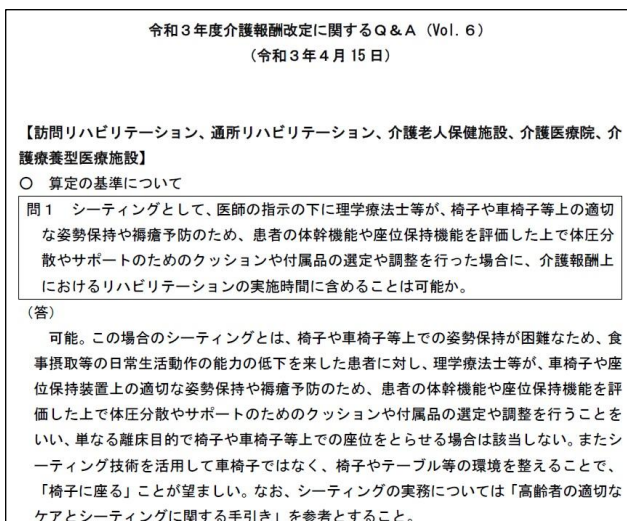


図2 介護保険のシーティング算定



図3 介護保険のシーティングの取り組み



図4 シーティングガイドブック表紙

2023年3月には念願であった「こどものシーティングプロジェクト」も立ち上がり、補装具と姿勢保持装置についての現状と課題について整理がスタートしました。2月には「医療機関のシーティングセミナーⅠ」を開催し、医療機関でのシーティングの実情などを把握する機会となりました。10月には「介護保険制度とシーティング、その普及と課題」のセミナーを開催しました。また、第39回日本義肢装具学会にて「医療機関のシーティングを知るーリハビリテーション医療におけるシーティング・チーム作りの重要性ー」についてシンポジウムを開催しました。

2024年2月には「こどものシーティング」報告書ができて報告会も開催されました(図5)。その年には、そのほかに医療機関・介護保険のシーティングの啓発目的で2回のセミナーを開催しま

した。11月には日本リハビリテーション学会秋季大会において、「介護保険におけるシーティング」の講演を行う機会がありました。

2025年1月には、「シーティング 世界最新動向を探る」としてセミナーを開催しました。コロナ禍が解消して、海外情報を得る目的で、今世紀の車椅子・シーティング・支援技術をめぐる世界的潮流について、WHOの下部組織である国際車椅子専門家協会(ISWP)のテキストなどを使った講義などがありました(図6)。2025年の後半は、これからの予定になります。財団設立から10年になりますが、ここまで来られたのも、車椅子シーティングを推進するために、ご支援を頂いた皆様のお陰だと信じております。本当に感謝いたします。引き続き、シーティングの普及啓発活動も進めてまいります。



図5 2024年2月3日 こどものシーティングー現状と課題ー

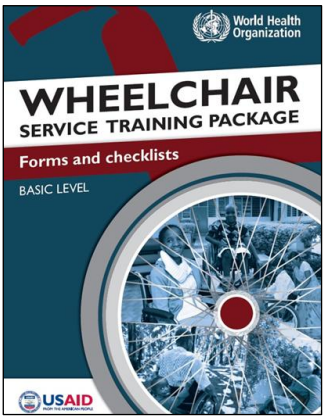


図6 国際車椅子専門家協会 (ISWP) のテキスト表紙

活動記録としての年表 (2021~2025)

2021.3	車椅子における座位保持等と身体拘束との関係についての調査研究報告書 令和2年度 厚生労働省 老人保健健康増進事業
2021.3	「高齢者の適切なケアとシーティングに関する手引き」厚労省HP
2021.4	令和3年度介護報酬改定に関するQ & A (Vol. 6) 厚労省HP 介護保険のシーティングとして訪問リハビリなどで介護報酬が算定できる
2022.5.28	高齢者のシーティングセミナー 現地・Zoom参加
2022.11.26	高齢者のシーティングセミナーⅡ 現地・Zoom参加
2022.10.9	第38回日本義肢装具学会シンポジウム：介護保険のシーティングを知る
2023.2.25	医療機関のシーティングセミナーⅠ 現地・Zoom参加
2023.3	こどものシーティングプロジェクト設立
2023.10.14	「介護保険制度とシーティング・その普及と課題」のセミナー
2023.10.28	第39回日本義肢装具学会(岡山)シンポジウム：医療機関のシーティングを知る
2024.2.3	こどものシーティング報告(現状と課題)会 HP掲載
2024.6.8	医療機関のシーティングセミナーⅡ
2024.10.26	摂食・咀嚼・嚥下のシーティングセミナー
2024.11.1	日本リハビリテーション学会秋季大会(岡山)介護保険制度のシーティング
2025.1.18	シーティング 世界最新動向を探る~ISS・ESS・ISO・ISWP~
2025.11.8	第40回日本義肢装具学会(新潟)シンポジウム：医療機関から施設・在宅までの多職種連携のシーティングを考える
2025.12.6	小児分野のシーティングセミナー こどもの福祉用具制度を考える

第6回 シーティング連携マトリクス研究会 開催のご案内

開催日時：2025年12月13日(土) 13:00～17:00

開催場所：東京品川病院 2号館1階 講堂（最寄り駅：大井町駅 徒歩7分）
東京都品川区東大井6-3-22

参加(協力)費：2,000円（Zoom参加も含む）

懇親会費：5,000円程度（希望者のみ・当日会場で徴収）

参加締切：12月11日(木)

お問い合わせ：事務局 亀井 seatingmatrix@gmail.com

◆ 事例発表（6人を予定）

◆ 対談「看護学研究者から見たSCM※の素朴な疑問」

北里大学看護学部看護学科准教授 中山栄純先生×串田英之（作業療法士/開発者）

※SCM：シーティング連携マトリクス（Seating Collaboration Matrix）

シーティング連携マトリクス研究会について

「くずれ坐り」は、あらたな病気をつくりまします。多職種が協働して快適な「坐り」をつくるための「シーティング」、誰もが共有できる一枚の地図―それがSCマトリクスです。

【趣旨】

「シーティング」とは、自分で坐りなおすことができない方に対し、目的に合った適切な「坐り」を提供することです。

疾病や加齢などで「坐り」に支障をきたすことで心身へさまざまな悪影響を及ぼし、二次障害を引き起こすことはよく知られています。シーティング連携マトリクスは、その影響の範囲を確認し、時系列的に把握することができます。これを使うことで、シーティングのタイミングをはかり、シーティングの結果の評価を行うことができ、効率的な介護および介護予防ができます。またシーティング連携マトリクスはシーティング対象者に関わるそれぞれの立場と役割を明確にし、多職種連携をスムーズに図るための道具でもあります。

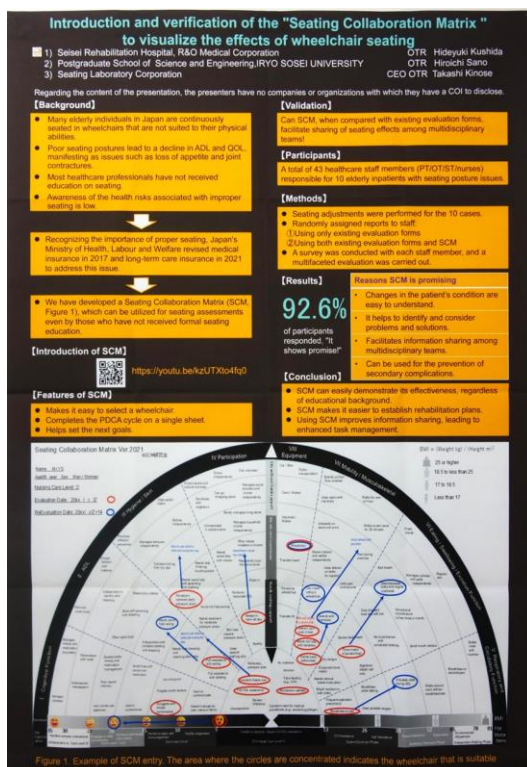
マトリクス（図）を実際に使ってもらい、みなさまのご意見を吸収しながら、より有効性の高いものに改善していきたいと考えています。

【目的】

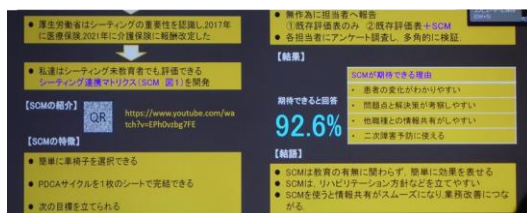
この研究会（略称；マト研）は、主に以下を目的にしています。

1. さらに使いやすく有効なマトリクスの作成
2. 看取り期まで坐って過ごせるシーティングの普及（研修会・事例報告会などの開催）
3. 総合的なケアの質の向上

※エビデンスがないと言われてきた「シーティング」にエビデンスを模索しています。



国際学会で串田英之さん（作業療法士/開発者のひとり）がポスター発表



日本語版（部分）

【編集後記】あれだけ暑く長い夏が終わり気がつけば冬の訪れ、季節は間違いなく進んでいきます。シーティングの普及も季節のように着実に進んでいけば良いのですが、力不足に歯痒い思いです。シーティングが普及すれば、もっと快適に、もっと自分で、もっと楽しくできることが増えます。自分でできることが増えれば意欲も高まり支援者の笑顔も増えます。シーティングにはそれだけの力があります。シーティングを普及しましょう。